

めぐみイエス・キリスト教会

2018年11月11日(日)第二主日礼拝
週報「通算第431号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年11月11日(第二主日礼拝)

第一礼拝 午前10時～11時

第二礼拝 午後6時～7時

司会(奏楽) 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌209「慈しみ深き」 p. 316

【交読文】 No.21 詩篇第62篇(抜粋) p. 895

【賛美Ⅱ】 新聖歌99「まぶねの中に」 p. 139

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.4「天には救いの喜び満ち」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書16章21節～22節(新約p. 196)

【祈 禱】

【説 教】 《もう一度》

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所【ヨハネの福音書16章21節～22節】

16:21「女が子を産むときには、その時が来たので苦しみます。しかし、子を産んでしまうと、ひとりの方が世に生まれた喜びのために、もはやその激しい苦痛を忘れてしまいます。

16:22 あなたがたにも、今は悲しみがあるが、私はもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。」

●ポイント1 主イエス様の言われた「産みの苦しみ」のたとえとは？

※創世記3章16節前半 「アダムとエバの裁きから」 (旧約p.4)

3:16 女にはこう仰せられた。「私は、あなたのみごもりの苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。」

※イザヤ書26章17節～19節 「旧約における復活の預言」 (旧約p.1068)

26:17 子を産む時が近づいて、そのひどい痛みに、苦しみ叫ぶ妊婦のように。主よ。私たちは御前にそのようでした。

26:18 私たちもみごもり、産みの苦しみをしましたが、それはあたかも、風を産んだようなものでした。私たちは救いを地にもたらさず、世界の住民はもう生まれません。

26:19 あなたの死人は生き返り、私の亡骸は甦ります。さめよ、喜び歌え。ちりに住む者よ。あなたの露は光の露。地は死者の霊を生き返らせます。

●ポイント2 「もう一度」とは？

※ルカの福音書5章3節～7節 「最初の大漁の奇跡の体験」 (新約p.106)

5:3 イエスは、そのうちの一つの、シモンの持ち舟にのり、陸から少し漕ぎ出すように頼まれた。そしてイエスはすわって、舟から群衆を教えられた。

5:4 話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われた。

5:5 するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもお言葉どおり、網をおろしてみましよう。」

5:6 そして、その通りにすると、沢山の魚がはいり網は破れそうになった。

5:7 そこで別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。彼らがやって来て、そして魚を両方の舟いっぱい上げたところ、二そうとも沈みそうになった。

※ヨハネの福音書21章1節～12節「再びガリラヤ湖にて」 (新約p.205下段)

●ポイント3 「その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません」とは？

※ヨハネの福音書15章11節「私の喜びがあなたがたの喜びが」(新約p.193)

15:11 「私がこれらのことをあなたがたに話したのは、私の喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」

※ピリピ人への手紙4章4節 「使徒パウロの勧めから」 (新約p.355)

4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

◎先週のメッセージの概要【しばらくすると】

《刻一刻と、主イエス様の十字架の時は迫っています。イエス様に残された時間は、本当にあと少しです。ここでイエス様は、「しばらくすると」と言われましたが、今日の聖書箇所には何と、その言葉が七回書かれています。

さて、「しばらくすると、もはや私を見なくなる」とはどのようなことでしょうか。一つは、もちろん「十字架」です。そして、もう一つは、弟子たちが「イエス様を見なくなる」と言うことです。彼らは三年半にわたりいつもイエス様と一緒にいました。そしていつもイエス様を見ていたのです。しかし、イエス様が捕らえられた時、彼らは逃げ出したのです。つまり、イエス様から目が離れたのです。

次にイエス様は、「しかしまたしばらくすると私を見ます」と預言されました。イエス様は、弟子たちに何度も受難予告をされましたが、よみがえられることも、再三預言されたのです。

「私は三日目によみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」

さてイエス様は、彼らに、「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜ぶのです。あなたがたは悲しむが、しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。」とも、言われました。

なぜ彼らは「嘆き悲しむ」のでしょうか。それはイエス様がゲッセマネの園において、ローマ兵たちに捕らえられ、十字架にかけられるからです。

しかし世は喜ぶのです。「世」とは、この世の支配者である悪魔のことです。救い主を殺したことを喜びます。しかし十字架こそが、勝利となります。

イエス様の「十字架の死」は弟子たちをどん底に突き落とし、彼らは悲しみのあまりに絶望してしまいました。しかし三日目に、イエス様は復活されます。

その復活された日の夕方、イエス様が突然、集まっていた弟子たちの所へやって来られました。弟子たちの喜びは、いかばかりであったことでしょう。

やがて主を信じる者、すべての人の涙を、主が乾かされる時が来ることを、ヨハネは黙示録において、こう預言しています。『神は彼らの目の涙をすっかりぬぐいと取って下さいます。』と。その時は、必ずやって来るのです。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は、11月18日(日)です。通常通り、第一礼拝は午前10時から、そして第二礼拝は午後6時から行ないます。次回の祈祷会は、11月21日(水)午後6時15分からです。11月14日(水)と28日(水)の祈祷会はお休みします。